

令和 4 年度厚生労働科学研究費補助金（女性の健康の包括的支援政策研究事業）  
総括研究報告書

性差にもとづく更年期障害の解明と両立支援開発の研究

研究代表者 安井 敏之 徳島大学大学院医歯薬学研究部生殖・更年期医療学 教授

（研究要旨）令和 4 年度の研究事業では、研究 1 年目の検討として各分担者においては、文献レビュー、質問紙調査の作成、倫理審査委員会提出書類の作成を行った。同時に、就労者疫学調査については、女性更年期症状特に精神神経症状とプレゼンティーズムとの間の有意な関連がみられ、レセプトによる受診率調査から新規に病院受診した割合（50～54 歳）は、女性で 1.75%、男性で 0.07%であった。3 月に行われた班会議では、それぞれの分担者の計画の進捗状況を把握し情報を共有するとともに、各関連学会と連携して調査を行うことも確認した。

A. 研究目的

女性は周閉経期になると急激な性ホルモンの変動が見られ、ほてりやのぼせ、寝汗、不安感、抑うつ、睡眠障害、関節痛、易疲労感など様々な更年期症状を生じる。その原因として、性ホルモンの変動以外に仕事や家庭環境などの因子や個人の性格が指摘されている。一方、男性も中高年になると性ホルモンがストレスなどにより減少し、女性の更年期症状に似た症状を呈する LOH 症候群（late onset hypogonadism）が注目されている。このような男女に見られる更年期症状は働く男女にとって就労に影響し、仕事の継続が困難になるケースも存在し、QOL を損なう可能性がある。したがって、職場において更年期症状についての啓蒙活動が行われるとともに、労働環境の改善に向けた検討も必要であるが、日本において更年期症状と就労との関係について調査さ

れた研究が少なく、認識も低い。そこで、本研究では、性ホルモンの変化に伴う男女の更年期症状に関して、性差の観点から国内外のエビデンスを収集・整理するとともに、日本における症状と就労との関係、症状が見られてから病院やクリニックへの受診に至る経緯（あるいは受診していない経緯）を明らかにする。これらの経緯や関係は、男女によって異なる可能性もあり、性差に着目した両立支援として検討することを目指す。令和 4 年度は、①男性更年期症状および女性更年期症状の発症に関連する因子の 1 つとして職業との関係を国内外の論文をレビューし現状を把握する、②外来受診した患者について発症から外来受診に至るプロセスについてレビューの結果をもとに質問紙調査の作成する、③就労者疫学調査を行い、更年期症状とプレゼンティーズムとの間の関係を明らかにする、④レセプトによる外

外来受診率調査を行い、男女それぞれに更年期症状を訴えて病院やクリニックを受診した割合を算出することとする。

## B. 研究方法

令和4年度の研究事業では、研究の第一年として各分担者において様々な準備を実施した。また、研究計画の段階においてWebで班会議を行い、それぞれの研究方法を確認し、3月の研究報告会では、それぞれの研究の進捗状況について情報を共有した。なお、研究全体の総括は安井が中心となって行なった。

### ①更年期症状と就労の関係について文献レビュー

女性更年期症状については、安井、岩佐、甲賀を中心に、更年期症状、職業、プレゼンティーズム、アブセンティーズムなどをキーワードとして国内外の論文を検索し、文献レビューを行った。

男性更年期症状については、堀江、井手を中心に国内外の論文を検索し、文献レビューを行った。

### ② 外来受診患者に対するペーシャントジャーニー調査

女性更年期症状については安井、岩佐、甲賀を中心に、男性更年期症状については堀江、井手を中心に、レビューの結果をもとに、外来受診した患者について発症からどのようにして外来受診に至ったか、あるいは更年期症状がみられるものの外来受診をしていない経緯についてそれぞれ対象者を分けて質問紙調査の項目を作成する。また倫理審査委員会提出する書類の作成を準備し、次年度に実施を行えるようにする。

### ③ 就労者疫学調査

藤野が中心となって、就労者疫学調査を行い、男女の更年期症状とプレゼンティーズムとの間の関係を明らかにした。

### ④ レセプトによる外来受診率調査

藤野が中心となって、レセプトによって、男女の更年期症状についての外来受診率調査を行い、男女それぞれについて更年期症状を訴えて受診した患者の割合を算出した。

## C. 研究結果

### ①更年期症状と就労の関係について文献レビュー

女性においては、職業と更年期症状との間に関係あり、特に仕事によるストレスと更年期症状が関係するといった報告が多いが、逆に有職者では軽いといった報告もみられた。都市部での職業においては更年期症状が強いといった報告がみられた。看護師に焦点をおいた研究では、管理職と非管理職とではストレスのレベルも異なり、更年期症状の強さも異なることが報告されている。また、職場の過ごしやすさやサポートといった良好な職場環境は更年期症状を軽減するといった結果もみられている。男性と同様に、女性においても更年期症状を我慢することが多く、どのように対応すべきかがわからないといった割合が多くみられる。結果の多くは海外の研究によるものが多く、本邦における検討は十分ではない。

### ② 外来受診患者に対するペーシャントジャーニー調査

①の文献レビューの結果をもとに、外来受診した患者を対象に発症からどのようにして外来受診に至ったかについて質問紙調査の項目を作成中である。また、症状を有するものの外来を受診していない患者において

も別に質問紙調査を行うこととして、その項目を作成中である。同時に、倫理審査委員会に提出するための書類を準備中である。

### ③ 就労者疫学調査

女性更年期症状においてプレゼンティーズムとの間に関連がみられたが、多因子で調整すると精神神経症状についてのみプレゼンティーズムとの間に有意な関連が見られ、ほてりやのぼせなどの身体症状との間には有意な関連が見られなくなった。

### ④ レセプトによる外来受診率調査

レセプトによる受診率調査から新規に病院受診した割合(50～54歳)は、女性で1.75%、男性で0.07%であった。

## D. 考察

### ①更年期症状と就労の関係について文献レビュー

就労と更年期症状との間の関連について日本における報告は極めて少なかった。また職種による偏りが見られた。海外における結果から、国による違いも見られた。また、これらの研究は横断研究によるものであり、前向き研究となっていないため両者の因果関係については明らかになっていない。男女における更年期症状には、生活環境や性格など様々な因子がその発症に関係していることから、就労の要因だけにするには研究の難しさがあることがわかった。

### ② 外来受診患者に対するペーシャントジャーニー調査

質問紙調査においては、できるだけ要因を絞り、かつ答えやすいような質問項目の作成を行なう必要がある。

### ③ 就労者疫学調査

プレゼンティーズムについて、ほてりやの

ぼせなど身体症状との関連よりも精神神経症状との関連が強かったことは海外における結果と異なる。本邦では海外の女性に比較してほてりやのぼせなど血管運動神経症状の割合が少なく、その程度も弱いことが影響しているかもしれない。その理由として、本邦女性においては大豆食品摂取が多いことが関係して可能性も考えられる。

### ④ レセプトによる外来受診率調査

男性更年期症状、女性更年期症状を有する男女の病院受診率は想像以上に低く、症状があっても受診に結びついていない現状が浮き彫りになった。なお、本調査においては、各分担者と話し合ってもう少しレセプトの要因を検討する必要がある。

本年度は、本研究の第1年度として、両立支援のあり方の準備段階として様々な検討を開始することができた。第2年度以降の事業の遂行の準備が行われた。

## E. 結論

本年度の研究状況をさらに推進し、次年度以降にはさらに具体的な成果が期待される。特に、男女とも受診にいたる過程についての質問紙調査を行うことで、受診率の低さの理由を明らかにすることができると思われる。また、男性更年期症状とプレゼンティーズムとの関係を明らかにすることができ、これらの結果をもとに両立支援のあり方を検討することが可能である。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

1. 論文発表 論文投稿中

2. 学会発表等 発表準備中

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得 該当無し
2. 実用新案登録 該当無し
3. その他 該当無し